

1. 教育の責任

私は、家政学部の教員として専門基礎領域の科目を担当しており、管理栄養士国家試験に必要な基礎学力と管理栄養士の専門領域につなげるための知識の修得を担っている。具体的には、専門基礎分野の一つである「社会・環境と健康」担当の専任教員として、公衆衛生と関連する科目を中心に以下の講義科目を担当している。

○健康栄養学専攻専門科目

科目		開講時期	単位数	卒業必修	
専門基礎分野	社会・環境と健康	社会福祉論	1年後期	2	○
		公衆衛生学Ⅰ	3年前期	2	○
		公衆衛生学Ⅱ	3年後期	2	
		健康管理概論	1年前期	2	○
課題研究		3・4年通年	6		

2. 教育の理念

管理栄養士の養成校である本学科の学生にとって修学の目標は国家試験の合格であることから、国家試験対策として必要な公衆衛生分野の知識や概念について、強調して意識付けを行うよう心掛けている。それに加えて、公衆衛生の視点を持って考えることができる医療関係職種を育てたいと考えている。

栄養士、管理栄養士という専門職を目指す上で修得すべき事柄は多いが、それがなぜ必要なのか、学生が自発的に関心を持つことを重視している。講義では知識の提供だけに留まらないようにし、学生が受け身ではなく、自分で考える姿勢を育てたいと考えている。また、個々の知識の関係を全体的な枠組みとして理解することを促していきたい。

3. 教育の方法

課題研究を除けば、担当する授業科目は全て講義形式である。そのため、講義や対話活動、グループワーク等、複数の学習形態を取り入れながら授業を行なっている。媒体については、パワーポイントプレゼンテーション（PPP）の映写によるICTを基本として、板書やプリント資料を活用している。キャンパス内のネット環境が整備されつつあることから、授業中のタブレット端末やスマートフォンの利用を認めている。学生には毎回様々な課題を設定してミニットペーパーを提出させ、次回の授業でフィードバックを行っているが、その際にはGoogleのclassroomを活用している。この他、学生は分からない用語の検索や板書の記録としても活用していたようである。

4. 教育の成果

担当した授業の授業評価アンケートでは、総合評価の点数は健康管理概論（4.27：回答45人）、公衆衛生学Ⅰ（4.26：回答33人）等、全科目が3点後半～4点前半という結果であった。自由記述について

て、1年生開講の科目では、板書をして欲しいといった指摘やテスト対策としてプリントの配布を望む意見が見られた。成績は筆記試験とレポート、受講態度を勘案して評価している。今後は事後学習、とりわけ試験の復習に役立つような紙資料を作成・配布が必要と思われる。講義の内容について、公衆衛生学Ⅰではグラフ・表を用いた計算の説明が分かりやすかったといった意見が見られた。授業では疫学について扱っているが、ミニットペーパーの回答を見ると疫学の概念や実際の計算を難しいと感じている学生は多いように思われる。

5. 今後の目標

専門職として身につける知識、そして国試受験に向けて伝達すべき情報量は決して少なくない。公衆衛生に関する知識もその一つであるが、それと合わせて公衆衛生の視点や疫学の考え方についても学生が興味関心を持ちやすいように講義等で扱うテーマにその時期にトピックスとなっているような内容や事例をできるだけ取り上げるように心掛けたい。具体的には公衆衛生関連法規の改正や定期的に改定されるガイドライン、実際の保健事業等を積極的に紹介したい。

疫学は公衆衛生分野のみならず、現場で生じる課題を解決したり、栄養の成果を評価したりする際にも活用することができる。栄養士・管理栄養士の活躍の場は臨床現場をはじめとして多方面にわたっているが、最近では行政管理栄養士に関して、公衆衛生専門管理栄養士（仮称）の認定制度に向けた動きも見られる。授業を通じて疫学的な考え方、さらには公衆衛生学の視点の大切さを理解してもらえよう引き続き取り組んでいきたい。